

戦傷病者史料館

しょうけい館 通信

団体見学向け

施設見学の手引き



Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

T O P I C S

P1 団体見学向け施設見学の手引き

P6 教室で受講できるオンライン学習支援プログラム

Vol. 006

September 2026

しょうけい館（戦傷病者史料館）は、先の大戦で傷つき、病にかかった戦傷病者とその家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦を伝える国の施設です。戦傷病者（せんしょうびょうしゃ）とは、戦争中の公務によって負傷したり病気になったりした、軍人や軍属（軍隊に所属し、軍務や基地の業務を支える人）などの人たちを指します。当館の団体見学は、中・高校では平和教育や総合学習、医療系専門学校や大学史学部などでは課外授業・研究、一般のグループでは歴史や戦争の実態を知る場として、幅広くご利用いただいています。

団体見学を希望される方には、専用の予約コースを用意しています。5名以上のグループであれば、申込が可能です。予約コースの中から希望のコースを選び、展示見学と組み合わせることで充実した見学が可能ですので、ぜひご利用ください。予約申込はホームページの予約フォームまたはFAXをご利用ください。

団体見学予約コース一覧

1 スタッフの説明を受けてから施設を見学

- 概要説明コース → ・概要説明のみ紹介します。（約5分）
- 展示ガイダンスコース → ・展示内容の解説や見どころを紹介します。（約15分）

2 関連の映像を見てから施設を見学

- 映像上映コース（証言映像） → ・戦傷病者の証言映像（1作品 10～20分）を、施設見学の前に上映します。
- 映像上映コース（歴史紹介映像） → ・先の大戦（日中戦争・太平洋戦争）の歴史を知る映像（10分）を上映します。

3 語り部による戦傷病者の体験に関するお話を聞いてから施設を見学

- 語り部講話コース → ・語り部講話（約30分）を、施設見学の前に行います。

4 自由に施設を見学する

- 展示見学のみ → ・一般来場者と同様、スタッフからの説明や映像視聴は無く、すべて自由見学となります。

※いずれのコースも、施設見学の時間に制約はありません。

見学コースの紹介

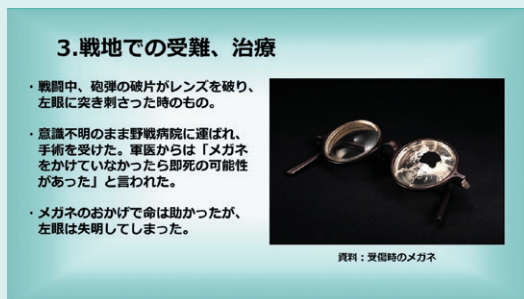
1 スタッフの説明内容 概要説明コース・展示ガイダンスコース



施設見学に先立って、シアターにて説明員から施設の概要や展示の解説をおこない見学の理解促進を図ります。

● 概要説明（5分）

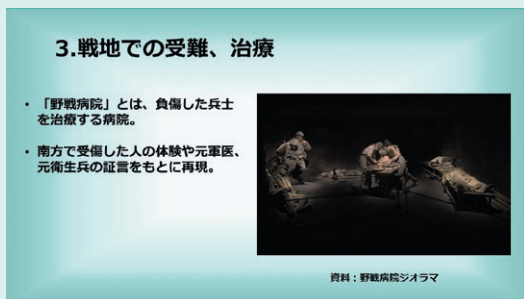
しょうけい館で展示している戦傷病者の労苦に関する基本的な情報をスタッフより説明します。（スライドは用いません）



展示ガイダンスのスライド

● 展示ガイダンス（15分）

概要説明に加え、常設展示室の展示物や見どころについてスライドを用いて紹介します。



重要な展示品や展示コーナーを解説します

見学コースの紹介

2 映像の内容 映像上映コース



戦傷病者の証言を記録した映像や、先の大戦の歴史を知る映像を見てから展示施設の見学ができます。団体見学では、シアターで映像を上映し、その後に展示をご覧ください。

映像の種類①「証言映像」

しょうけい館では、戦傷病者やその家族などの証言を記録した約200本の映像を公開しています。映像では、以下のような戦傷病者の労苦や医療従事者などの体験を、本人やご家族の証言と当時の記録映像などを織り交ぜて紹介しています。上映時間は作品によって異なりますが、10～20分程度となります。

- けがによる労苦
頭部・上肢・下肢の怪我・欠損、下半身不随、失明など。
- 病気による労苦
ハンセン病、結核、シベリア珪肺など。
- 兵士以外の戦傷病者の労苦
一般市民（沖縄地上戦）、軍医、従軍看護婦の体験。

証言映像は、体験の内容はもちろんのこと、それを語りかける表情に至るまで記録されているため、より実感をもって証言者の体験や思いに触れることができます。戦傷病者おのおのが体験したさまざまな受傷や労苦の証言を、公開映像から選んで視聴することができます。視聴する映像のご希望を申込時にお知らせください。

代表的な証言映像

- ❖ 「生きる・・・それは死ぬよりつらかった」
（両腕切断の戦傷病者の証言）

両腕を切断した証言者は、絶望から自殺を図ったこともありましたが、前腕の骨で物を挟めるようにする特殊な手術を受けて転機を迎えました。その後、厳しいリハビリを経て義手以上の動作が可能になり、戦後は大工の経験を活かして工務店を立ち上げました。

- ❖ 「療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～」
（下半身不随となった戦傷病者の妻の証言）

中国での戦闘で脊髄に銃弾を受け、下半身の麻痺等の障害を負った証言者は、箱根療養所に入所し、妻も住み込みで介護にあたりました。入所者同士で支え合い、戦後の苦しい時期には竹細工で生計を立てました。脊髄損傷の戦傷病者は、3年程度で亡くなる人が多いなか、半世紀以上を療養所でともに過ごしました。

「生きる・・・それは死ぬよりつらかった」



証言映像のワンカット（両腕切断の戦傷病者）

「療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～」



証言映像のワンカット（脊髄損傷者の療養所）

映像の種類②「歴史紹介映像」

日中戦争の始まりから太平洋戦争開戦、そして終戦までの歴史的事象をまとめた映像もご用意しています。

高校生の学習程度の内容で上映時間は10分です。記録映像などを使いながら歴史の流れに沿って作られているため、当時の世界や日本の社会状況を知ることができ、見学の際の導入として視聴すると、展示をより理解することができます。

情報

証言映像は、図書室の情報検索端末でも視聴できます。情報検索端末では、その他に書籍や実物資料、戦傷病者の記録が検索できます。



情報検索端末

見学コースの紹介

3

次世代の語り部の講話内容

語り部講話コース



戦傷病者が体験した苦労を次世代の語り部がお話する講話を聴いてから展示施設の見学ができます。団体見学では、シアターで語り部講話をおこない、その後に展示をご覧ください。

●「次世代の語り部の講話」

戦傷病者とそのご家族が体験した戦中・戦後の労苦を後世に語り継いでいくため、戦争や戦傷病者としての体験のない戦後生まれの方が語り部として、体験者の思いをわかりやすく伝えます。講話の内容は、しょうけい館の所蔵資料を中心に取材した内容を、当時の社会状況等を交えながらまとめたものです。戦後81年が経過し、語り部による講話は、戦傷病者の思いを引き継ぎ平和の大切さを伝えています。

21人の語り部が、以下のような戦傷病者の体験をお話しします。

- 戦闘によって両腕を失い、片眼も失明してしまった戦傷病者の話
- 中国戦線で左脚を失った戦傷病者の話
- ハンセン病で戦後も療養所で過ごさなければならなかった戦傷病者の話
- 沖縄戦で負傷した戦傷病者の話
- 療養所で生活していた戦傷病者とその妻の話
- 両目失明となった戦傷病者の話

※語り部の日程調整の都合上、お申し込みは1か月前までにお願いします。

申込の日程によっては、語り部が手配できない場合があります。また、万が一の事態により講話ができない場合があります。

講話ピックアップ

❖「捕虜と隔離が打ち砕いた人生」

戦地で捕虜となり、収容所でハンセン病が発覚した戦傷病者のお話です。戦中戦後を通して隔離生活を余儀なくされながらも、懸命に生きた人生を話します。

❖「松葉杖一本をたよりに
～沖縄戦で生き残った少女～」

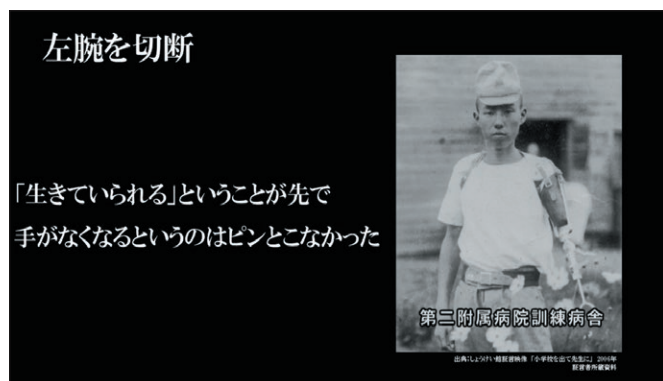
幼い時に沖縄戦で右脚を失い、家族全員が戦渦に巻き込まれ、心身ともに大きな傷を負いながらも厳しい現実をのりこえて強く生き抜いた戦傷病者のお話をします。

❖「一筋の光を求めて」

両眼失明となった3人の戦傷病者のお話をします。眼が見えないというハンディを抱えながらも家族とともに懸命に生きた方々の姿を伝えます。



講話の様子



講話スライドの一例

語り部講話は毎月1回
定期講話会でも視聴可能

語り部講話は、団体見学以外で毎月1回、第2日曜日の13:00より開催している定期講話会で、聞くことができます。予約不要、入退室自由ですので、お気軽にご参加下さい。



定期講話会の様子

見学コースの紹介

4

展示施設を見る

常設展示室



常設展示室は、戦争により傷を受け、あるいは病にかかり生涯にわたって苦労された、多くの戦傷病者とその家族から寄せられた証言をもとに、実物資料（約200点）やジオラマ等からなる5つのコーナーで構成されています。内容は「ある兵士の足跡」をたどる形となっており、徴兵から受傷病、戦地での治療、帰還、そして戦後も傷病を抱えながら生き抜く姿を見ることで、戦傷病者と戦傷病者が生きてきた時代を知ることができます。

展示室の入口ゲートを入ると、展示を見るためのイントロダクション映像が始まります（約2分）。戦争は決して過去のことではなく、いま私たちの近くで起きていても不思議ではないことを感じてもらい、戦傷病者の体験を自分事としてとらえられるようになっています。

コーナー紹介画像「ある兵士の手記」は、常設展示室の各コーナーに関する当時の社会背景をふまえながら、「ある兵士」の体験について紹介しています。

野戦病院のジオラマは、自然の洞窟を利用して作られた、南方の野戦病院の様子を再現したものです。ナレーションと照明装置によりジオラマの臨場感はそのまに、わかりやすい解説を聞くことができます。



常設展示室 展示ケース



常設展示室 展示ケース



野戦病院のジオラマ
常設展示室（3階）では野戦病院ジオラマの
写真撮影が可能です。



イントロダクション映像



コーナー紹介画像



心の傷による労苦コーナー

心の傷による労苦を紹介するコーナーを新設しました。戦地での戦闘体験や軍隊生活に起因する精神や神経の疾患は、本人だけでなく、家族にとってもつらい生活をもたらしました。



見学コースの紹介

4

展示施設を見る

企画展示 これからの企画展



秋の企画展

青年

武良 茂(水木しげる)と戦争

冬の企画展

漫画家

水木しげる(武良 茂)と戦争

漫画家・妖怪研究者として著名な水木しげる（本名：武良茂）氏は、先の大戦中に南方ラバウルで爆撃により左腕を失った戦傷病者でもありました。

秋の企画展では、青年武良 茂氏が一兵士として体験した軍隊生活、激戦地での受傷病までを伝えます。

秋の企画展 令和8年9月1日(火)～11月29日(日)

会場 しょうけい館 2階企画展示室

冬の企画展 令和8年12月1日(火)～令和9年2月28日(日)

時間 10:00～17:30(入館は17:00まで)



企画展示の様子(予定)



《マラリアと負傷でフラフラと歩く》 ©水木プロダクション 『娘に語るお父さんの戦記』



団体見学利用者の声

生徒さんの感想

学校で学んだこと以外にたくさんを知ることができました。実際に体験した話をきくことができてよかったです。



学校の授業では分からなかった戦場のつらさや、戦争の後のことがとても分かった。実際に自分の目で見ないと戦争の真の怖さを知ることができないと思った。



ネットの情報だけでは得られない知識や、生身のリアルを知ることができました。私達の世代が忘れてしまわぬよう、学習に取り組んでいきたいと再度感じました。



先生の感想

生徒達には歴史で近代史を教えるが、一人一人に何があったか、どんなつらさがあったのかまでは伝えていません。しょうけい館に来ることができ、痛々しさを知ること、伝えられるものがあると思います。



展示は、人の名前、その方の言葉や、至る経緯が詳しく書かれていて、想像しやすく、戦争を知らない私の世代にもわかりやすかったです。



戦争の恐怖、悲惨さを伝えるためには非常に苦労します。その点、ジオラマや画像を利用した展示方法や簡潔な説明が良いです。



しょうけい館へ直接ご来館しづらい学校のみなさまには、主に中学・高校の団体向けプログラムとして、オンライン学習支援プログラムを実施しています。

このプログラムは、学校への資料レプリカの貸出と、オンライン会議システムを用いたスタッフによる解説をセットにしたものです。実物資料を忠実に再現したレプリカを手元で観察しながら、戦争当時の時代背景や戦傷病者に関する解説を聞くことができるので、中学・高校生により深い理解を促せる構成となっています。

オンラインでの実施を前提としておりますので、遠方であってもインターネットが接続できて、オンライン会議が利用できる環境であれば実施できます。

平和学習や総合的な学習の時間で利用できるプログラムをお探しの学校関係者の方がいらっしゃいましたら、ぜひ、しょうけい館ホームページからお申し込み下さい。



貸出用の資料レプリカセット



レプリカを教室内で回覧する様子(左 弾痕のある煙草ケース、右 遺髪爪袋)



しょうけい館と学校を結んで行うプログラムの様子



しょうけい館からライブで語り掛けるスタッフのレクチャーに耳を傾ける

オンライン学習支援プログラム利用者の声

生徒さんの感想

(オンライン学習支援プログラムの授業を受けて)体験していないから理解は完璧にできないけど、実際に触ったり実物大で見ることができて、事実として知ることができた。



先生の感想

(オンライン学習支援プログラムは、)レプリカなどがあり、実際に触れることで、当時を身近に感じる事ができ、多くの生徒が真剣に話を聞いていたことがとてもよかったと思う。



戦傷病者等の妻の皆様へ

戦傷病者等妻給付金のご案内

令和8年4月1日時点で戦傷病者等の妻の方等に対して、「戦傷病者等妻給付金」が支給されます。

請求期限

令和9年2月28日(日)まで

※請求期限を過ぎると、給付金を受けることができなくなります。

- 支給対象者(①又は②のうちいずれかに該当する方)
 - ① 令和8年4月1日において「戦傷病者等の妻」である方
 - ② 「戦傷病者等の妻に対する特別給付金(第二十八回特別給付金または第二十九回特別給付金)」の受給権を取得し、戦傷病者等である夫が、平成28年4月1日から令和8年3月31日までの間に、一般の怪我や病気で死亡された方
- 支給対象予定者の方には、令和8年4月に厚生労働省から請求手続きの案内が送付されていますので、ご確認ください。
- 詳細や不明点等については厚生労働省社会・援護局援護・業務課給付係までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

厚生労働省社会・援護局援護・業務課給付係
電話 03-5253-1111(内線3426または4521)

ご来館のみなさまへ



地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ
九段下駅(東西線・半蔵門線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄
九段下駅(新宿線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

バスを利用の場合

- ♀都営バス
九段下(飯64系統)より徒歩4分
- ♀千代田コミュニティバス
千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。



www.shokeikan.go.jp

東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク九段2階

Tel: 03(3234)7821 Fax: 03(3234)7826

開館時間: 10:00~17:30(入館は17:00まで)

休館日: 毎週月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)

